

北東アジア国際観光促進フォーラム

ERINA調査研究部研究員 川村和美

2004年12月4日、東京において、ERINA、北東アジア観光研究会、NPO法人北東アジア輸送回廊ネットワークの主催、国際文化アカデミーの協賛により、北東アジア国際観光促進フォーラムが開催された。これは、北東アジア国際観光の促進に向け、北東アジアの国際観光の現状を把握すること、各国が共同で当地域の将来の観光促進に向けた戦略策定を目指して意見交換を行うこと、それらを通じて各国の観光関係者間の相互理解を深め、人的ネットワークを構築することを目的として行われた。当日は、各国地域を代表する報告者9名（うち1名は論文参加）、北東アジア観光研究会メンバーを中心とするこの地域の観光に興味を持つ関係者・専門家17名に加え、会場となったJTBトラベルカレッジの中国・韓国人留学生約10名が参加した。

このフォーラムの基となったのは、2004年8月に中国・大連市で開催された第1回北東アジア観光国際フォーラム

におけるERINA三橋特別研究員の報告である。それは、北東アジアの人々が協同で北東アジア観光開発のマスタープランを策定しようという提案であり、そのためにまず各国・地域の代表がそれぞれの地域の国際観光の現状を把握し、観光客の増大を図るための課題を明確にすることから始めようというものである。

こうした考えに基づいて、中国の黒龍江省、吉林省、遼寧省、ロシア、モンゴル、朝鮮民主主義人民共和国（以下、北朝鮮）、韓国、日本の代表者を選出し、それぞれに担当地域の代表的観光地あるいは国際観光有望地の選定と概要紹介、その観光地及び担当地域について現状認識・問題点を明確にし、国際観光を増加させる方法を報告してもらった。

遼寧省

遼寧省東北財経大学副教授の王艶平氏は、同省の主要な観光都市として瀋陽、大連、丹東、錦州、鞍山を挙げた。

瀋陽は遼寧省の省都で、東北で最も大きい工業都市であり、日本との関係も深い。大連は遼寧省トップの経済発展都市で、金石灘国際観光リゾートや旅順の観光に人気がある。また、大連を訪れる外国人旅行者の8割を日本人及び韓国人が占めることも特徴的である。丹東は北朝鮮との国境都市で、国家レベルの鴨緑江風景区を有している。錦州は明時代、清時代、秦時代の遺跡が観光スポットとなっている。

こうした主要な観光都市を中心に、遼寧省を訪れる観光客を増大させるためには、日本をはじめとする各国からの観光資本の誘致、観光開発のノウハウの導入、観光地ガイドの教育・レベル向上が課題として挙げられた。また、特に日本と共同で取り組むべき課題として満州時代の遺跡の共同整備と共同管理を挙げた。

黒龍江省

黒龍江省旅游経済学会秘書長の王子斌氏は、黒龍江省の主要な観光地として、鏡泊湖風景区、五営森林公園、亜布カスキー場、五大連池、太陽島、札龍自然保護区を挙げた。

鏡泊湖風景区では、山々と森林、湖といった大自然の美しさを楽しめる。五営森林公園は国家レベルの自然保護区・森林公園である。亜布カスキー場は冬季アジア大会を実施した経験を有し、競技スキー場、レジャー用スキー場、ジャンプ台などがある。五大連池は国家レベルの名勝地、地質公園で、世界三大冷泉の一つに数えられる。五大連池のミネラルウォーターは薬用価値も高く、人気がある。太陽島は灌木林・河川湿地を主とする名勝地で、新潟友誼園

があり、冰雪芸術館が建てられている。札龍自然保護区は丹頂鶴をはじめとする野生鳥類を観察できる。

現在、黒龍江省を訪れる観光客の9割が北東アジアの人々である。その目的は、ロシア人は買い物、韓国人は親戚訪問、日本人は企業視察などが多い。そこで、レジャー施設の充実、歴史的観光地の整備など、目的の多角化を図ることで、市場の拡大を目指すことを今後の課題として挙げた。また、インターネットなどを利用し、各国への観光資源のPRを行うことも重要であると述べた。さらに、観光客の増大のためには、国内の中央・地方政府間、観光管理部門間、企業間の連携を促進し、かつ二国間観光、多国間観光など北東アジア地域が連携して取り組む観光開発をすべきであると述べた。

内モンゴル自治区

内モンゴル自治区については、中国国際旅行社代表取締役社長の胡如祥氏が報告した。内モンゴルの主要な観光資源（観光ルート）として、西側を巡るフフホト～四子王旗～包頭コース、東側のハイラル～フルンバイル草原～満洲里コース、中央のシリンホト～シリングラ草原～赤峰コースが挙げられた。

フフホト～四子王旗～包頭コースでは、中国古代四大美人の一人である王昭君の墓や仏教・ラマ教・イスラム教などの寺や塔などが楽しめる他、草原でゲル訪問や乗馬体験などもできる。ハイラル～フルンバイル草原～満洲里コースでは、どこまでも続く緑の草原や湖などの大自然を満喫し、またロシアとの国境都市満洲里で国境を体感し、自由貿易市場を楽しむことができる。シリンホト～シリングラ草原～赤峰コースでは、大草原や森林公園のほか、元上都遺跡、遼上京城遺跡、遼中京城遺跡などの遺跡めぐりも楽しめる。

内モンゴル自治区の観光における問題点としては、冬季の自然状況が厳しく観光シーズンは夏のみとなっていること、日本からの直行便がなく、北京からの便も少ないなど交通の便が悪いこと、内モンゴルといえば草原や遊牧民のイメージがあるだけで、実態は殆ど知られていないことであるとまとめた。

吉林省

吉林省については、吉林大学副教授王曉峰氏がまとめた（欠席・論文参加）。王氏は吉林省の主要な観光地として、長春、吉林、長白山、集安、向海を挙げた。

吉林省の省都長春は同省の政治・経済・科学技術・文化の中心をなしている。観光スポットとしては、浄月潭国家

森林公園や偽満宮、長春映画城などがあり、また長春第一汽車を中心とする自動車産業観光（「中国長春国際自動車博覧会」を毎年秋に開催）も定着し始めた。吉林は中国四大自然景観の一つに数えられる吉林樹氷や松花湖スキー場、ジャンプ台などが楽しめる。長白山は中国東北での最高峰で北朝鮮との国境をなしている。ここは生態システムが完璧に保存された原始林地帯で、朝鮮民族にとっての聖地でもある。集安は世界遺産委員会に登録された高句麗遺跡をはじめとする古墳や遺跡が数多く残っている。向海は国家レベルの自然保護区があり、野生動植物が多数生息している。特に丹頂鶴の郷としても有名である。

これらの観光地を中心とする吉林省へ観光客を惹きつけるためには、国際航空路線の増大、北東アジアを中心とする各国へのPRの充実、地域間の旅行社の連携による2国間、多国間に跨る観光商品の開発の他、サービス・ホスピタリティーの向上が必要であると述べた。

ロシア

ロシアについては在日ロシア連邦大使館参事官のセルゲイ・ワシリエフ氏が報告した。

まず、ロシア極東における観光客の受け入れと観光渡航先を見ると、極東を訪れる観光客の80%、極東からの観光渡航先の94%を中国が占め、対北東アジア地域の観光が大部分をなしていること、そしてその数は近年増大していることを紹介した。

ロシア政府の観光に対する取り組みとしては、ロシア政府には10年間に亘って単独の観光機関がなかったが、2004年11月にプーチン大統領がロシア連邦観光エージェンシーの設立命令に署名したことを紹介し、これによって観光ビジネスもさらに活発化するものと考えられると述べた。

今後、ロシア極東への観光客を増大させるためには、近代的なホテルの設置、航空料金の引き下げ、入国手続き（ビザの取得を含む）の簡素化、サービスの質の向上、観光のPRが必要である。また、国境を接する中国、モンゴル、北朝鮮と協力することで、この地域の独自性のある観光商品が生まれるとまとめた。

モンゴル

モンゴルの状況は、在日モンゴル大使館参事官のバッチャルガル氏が報告した。

モンゴルは国家観光発展基本計画を策定し、2003年はVisit Mongolia、2004年はDiscover Mongoliaをテーマに積極的なPR活動を繰り返している。

今後の課題としては、冬季観光の充実、パードウォッチ

ングセンターの建設や動植物データベースの構築など自然を楽しむ観光の充実、ゴミの処理及びリサイクルシステムの確立、温泉と介護・治療を目的とする観光資源の開発などが挙げられる。

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

北朝鮮については、株式会社中外旅行社社長の韓正治氏が報告した。

韓氏は北朝鮮の主要な観光地として、平壤、妙香山、開城、金剛山・元山、羅先（羅津・先鋒）を挙げた。

平壤では近代的都市軍の見学が観光の目玉となっており、また世界遺産に登録されている高句麗古墳群がある。妙香山は朝鮮五大名勝の一つに数えられる神秘的で美しい山であり、リゾート型観光地の拠点のひとつである。開城は高麗の首都として栄え、商業都市として発展した古都である。「古都型観光地」として伝統的な建築様式を活かした民族旅館や古色豊かな町並みが見所である。金剛山は妙香山と並ぶ朝鮮五大名勝の一つで、世界の景勝としても知られている。また南北交流の目玉として「観光特区」に指定され、本格的「リゾート型観光地」として開発が進められている。元山は金剛山観光の発着地点であるとともに松林・白い砂浜などの名勝でもあり、また保養地としての施設も整っている。羅先は中国・ロシアと国境を接する地域で、羅津港を利用した中継輸送の拠点化とともに観光地区としての開発も行われている。風光明媚な海岸線や点在する島々を活用した夏季の観光をメインとしており、中国東北地域からの観光客を積極的に受け入れている。

今後の観光客増大のためには、観光資源の積極的開発、開放、インフラ整備、多国間の協調、投資の受け入れ、交通アクセスの拡充・改善、広報・宣伝活動の強化、多様な観光交流の積極的推進が必要である。

韓国

韓国については、大邱大学校観光学部教授の李應珍氏が報告した。李氏は韓国の主要な観光地として、大邱、安東、慶州、釜山、済州島を挙げた。

大邱は優れた仏教文化遺産と自然環境を誇り、市内では韓国で有名な漢方市場なども楽しめる。安東は韓国儒教を中心とする文化観光地であり、国内旅行者が多い。特に儒教文化遺産や安東国際仮面祭りが有名である。慶州は仏教文化を中心とした歴史文化観光資源が多く、世界文化遺産にも指定されている。釜山は海水浴場や海洋レジャーとショッピングや新鮮な魚介類を味わう市内観光が楽しめる。済州島では豊かな自然とそこに生息する動植物を楽しむ

み、またリゾート地域としてゴルフや乗馬、ウィンドサーフィン、フィッシングなどの体験ができる。

韓国を訪れる観光客の増大のためには、日本人・中国人を中心とするアジア観光客の誘致が必要であり、そのため中国人観光客に対するビザ取得手続きの簡素化や団体観光客に対するビザ野免除措置が行われるべきである。これに加えて、自然環境と調和する国際観光地の整備・開発、多数の外国人の参加が予想されるコンベンション産業の育成、韓国の固有文化を活かした代表的観光商品の開発、観光案内システムの整備、北東アジア各国との航空路の拡大、観光産業を担う国際水準の人材育成を課題として挙げた。

日本

日本については、社団法人日本旅行業協会（JATA）業務部業務第2グループマネージャーの青木志郎氏が報告した。青木氏は日本の魅力的観光地として、熊野古道、神戸、釧路、長崎、新潟を挙げた。

熊野古道の紀伊山地の霊場と参詣道は世界遺産にも登録されている。神戸は人が集い、交流し、魅力溢れる観光交流都市を目指し、「神戸観光アクションプラン」を策定している。釧路は、日本で最初のラムサール条約締結湿原である釧路湿原があり、それは日本で最後の国立公園「釧路湿原国立公園」となっている。長崎は600あまりの島々と入り組んだ海岸線に囲まれる自然豊かな地域である。古くから海外に門戸を開いた街で、その歴史的文化遺産は県内に多く点在している。新潟は対北東アジアの窓口として地理的にも近く、航空路を有し、歴史的つながりもあるなど、北東アジアにアピールできる観光要素を備えている。

日本への観光客を増大させることを目指し、Visit Japan Campaign（VJC）事業が開始されている。ここでは海外

メディア等を使った広報・宣伝、海外の旅行業者に対する日本向け旅行商品開発のための情報提供支援を行うこと、ITを活用した情報発信として、日本の威力、観光関連情報を多言語で総合的に提供するポータルサイトを構築すること、海外の主要20カ国・地域において、在外公館をはじめとする官民合同のVJC現地推進会を立ち上げることで、日本の自然、文化、伝統、視察などが織りなす魅力を「日本ブランド」として海外に発信していくこととしている。また、ビザ規制の緩和も施行されつつある。

それぞれの報告の後、質疑応答が行われ、観光開発に向けた活発な意見交換がなされた。各報告によりそれぞれの地域の観光資源と国際観光の現状と課題を大まかに把握することができた。各地の代表として挙げられた観光地のうち、知らなかったものもいくつかあり、他にもまだまだ魅力的な観光地があるに違いないという期待感が持てた。

北東アジアの観光に関するマスタープランの策定については、具体的な議論には至らなかったが、策定の意義・重要性については共通の認識を持つことができた。まずは北東アジアに目を向け域内の観光交流を促進しようという考え方、二国間・多国間観光の開発に取り組もうという提案が示され、こうした関係者間のネットワークを強化し、北東アジア地域全体としての観光マスタープランの策定に取り組んで行こうということについては参加者の意見が一致した。そして、そのマスタープラン策定の際には、トラベルエージェント、研究者・専門家、各地方政府関係者などさまざまな立場の人々が意見を出し合っていくことが有効であろうとされた。今回のフォーラムは、今後も引き続き関係者間の意見交換の場を持ちながら、マスタープランの策定を進めていくことを確認して、閉会した。